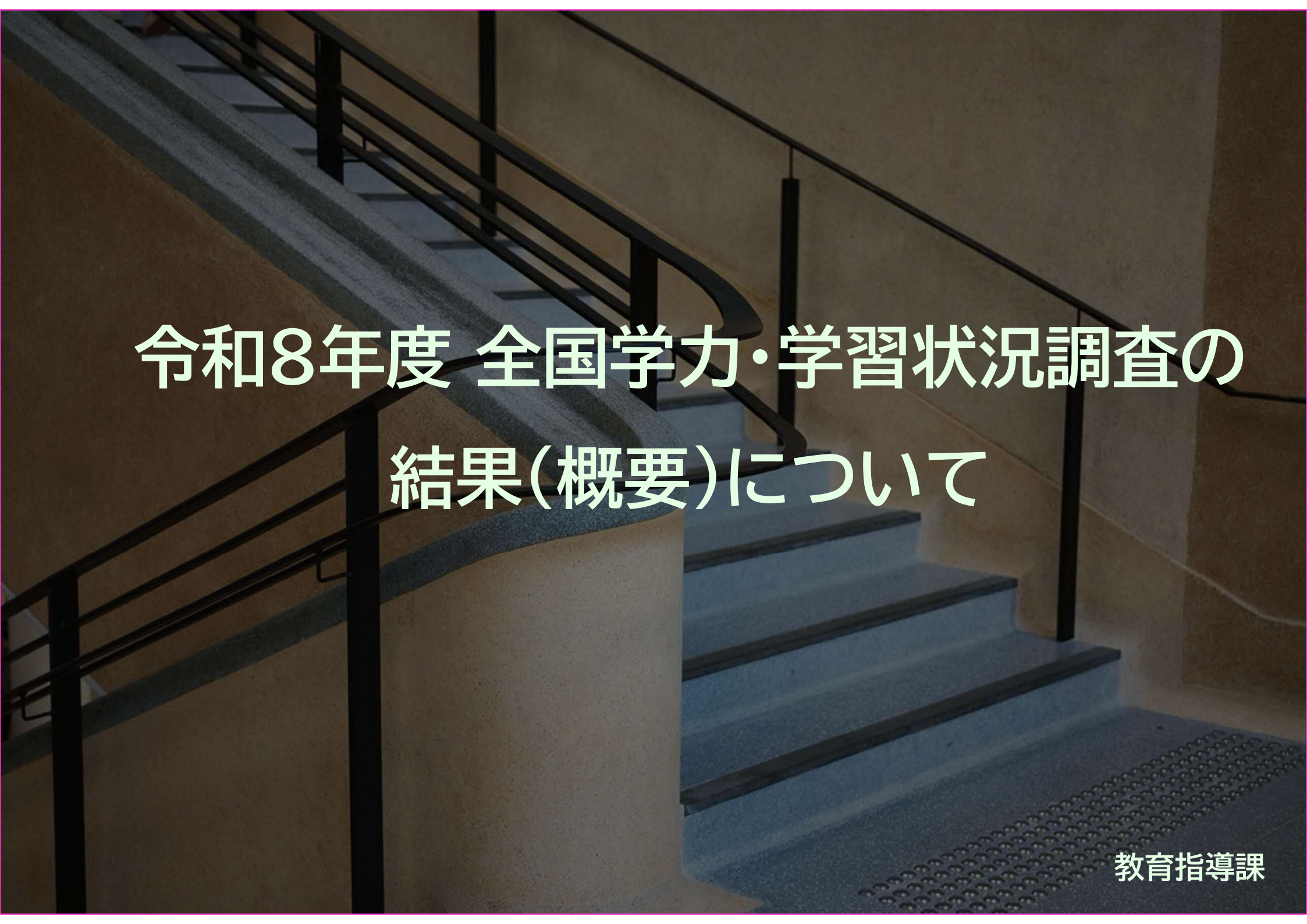


令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

教育指導課

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について

令和8年4月・5月に行われました『令和8年度全国学力・学習状況調査』の概要です。

調査目的

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記2点の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日 ； 令和8年4月23日（木）（中学校英語以外）
中学校英語CBT調査は4月20日（月）～5月29日（金）に分散実施
＊ CBT調査とは、一人一台端末（タブレット）を利用しての調査を表します。

調 査 対 象 ； 児童生徒：小学校6年生、中学校3年生

調 査 事 項 ； 児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、英語〕／質問紙調査

調 査 問 題 ； 学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕を問う問題を出題。

令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

小学校	枚方市	大阪府	全国
国語	59%	59%	60.9%
算数	56%	56%	56.4%

中学校	枚方市	大阪府	全国
国語	63%	61%	63.9%
数学	57%	55%	57.0%
英語	507	497	499

中学校英語はCBT調査によるIRT分布のスコア

小学校：国語、中学校：国語は
全国平均を若干下回り、
小学校算数、中学校数学は同等、
そして英語では上回る結果となりました。

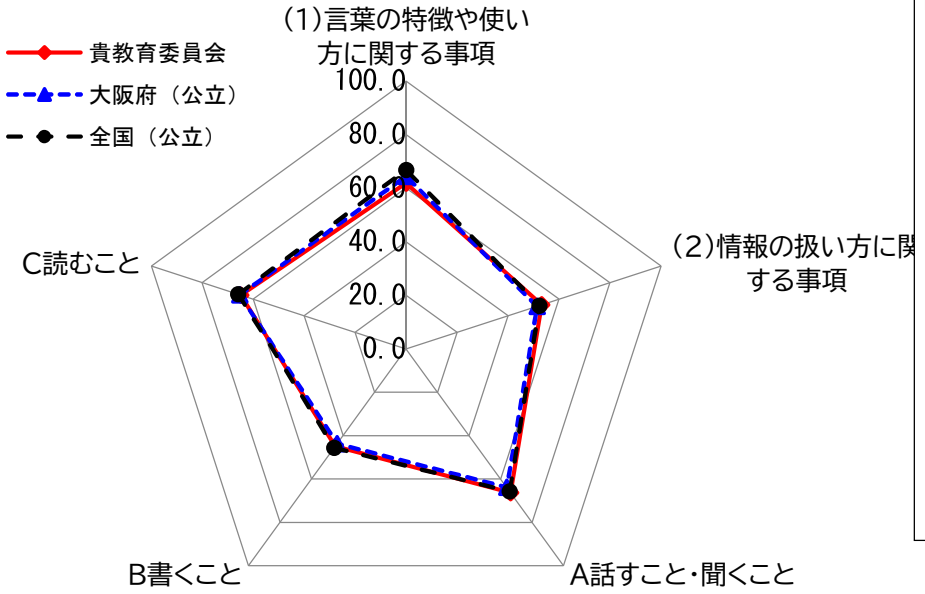
令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

小学校【国語】

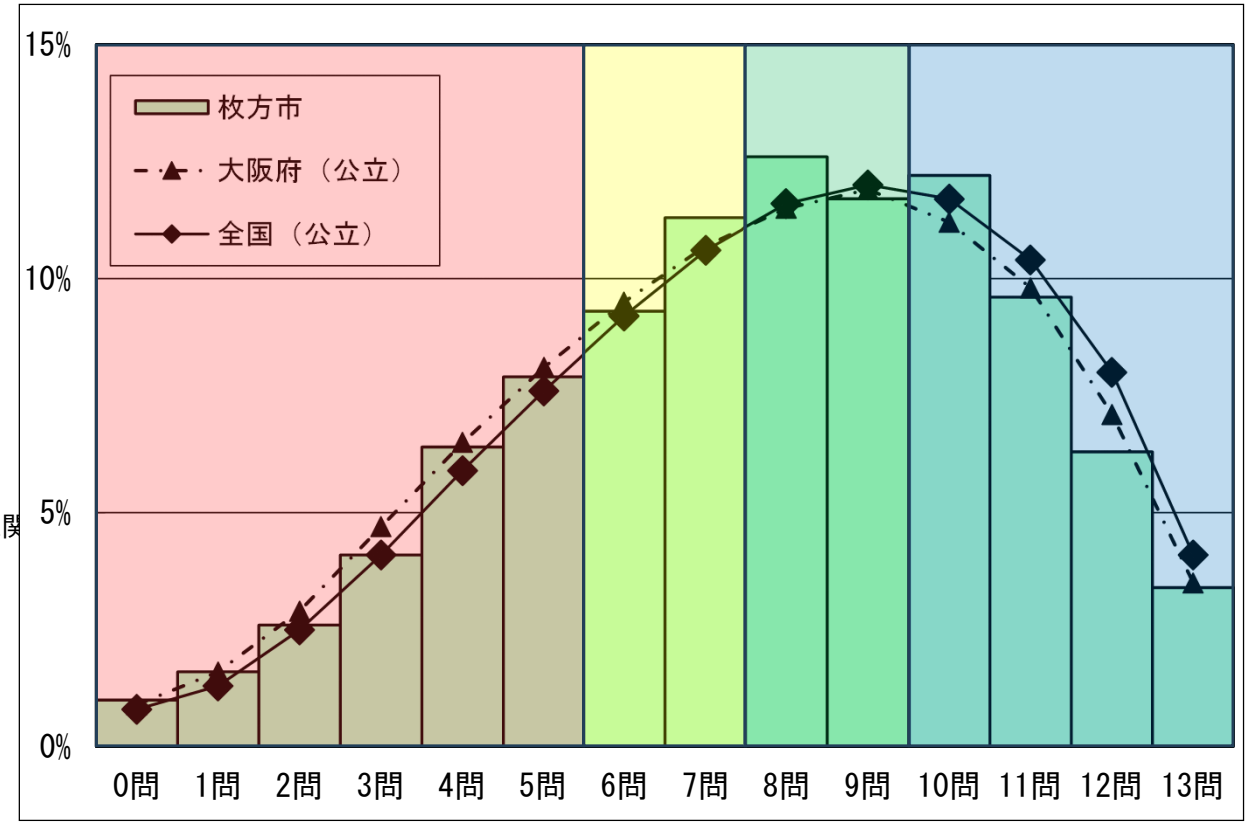
平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
国語	59%	59%	60.9%

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



小学校国語では、全国平均を若干下回っています。正答数分布グラフでは、概ね全国と同じ分布となっています。赤色の第１四分位（低正答率層）は幅広く分布しています。また青色部分の第４四分位（高正答率層）に関しては、全国を若干下回る傾向が見られます。

調査結果から見えた枚方市の成果と課題について

枚方市の結果

小学校国語

分類		区分	平均正答率(%)	
			枚方市	全国(公立)
全体			59	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	61.9	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	53.2	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	-	-
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.4	65.8
		B 書くこと	44.9	45.7
		C 読むこと	64.9	65.9

小学校国語では、『思考力、判断力、表現力等』の内容「A話すこと・聞くこと」で全国平均を上回り、知識及び技能の『言葉の特徴や使い方に関する事項』は下回りました。

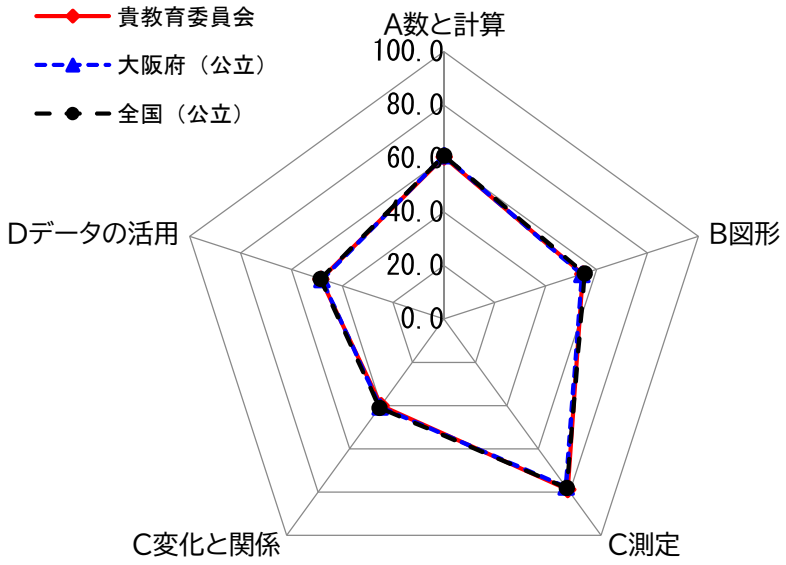
令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

小学校【算数】

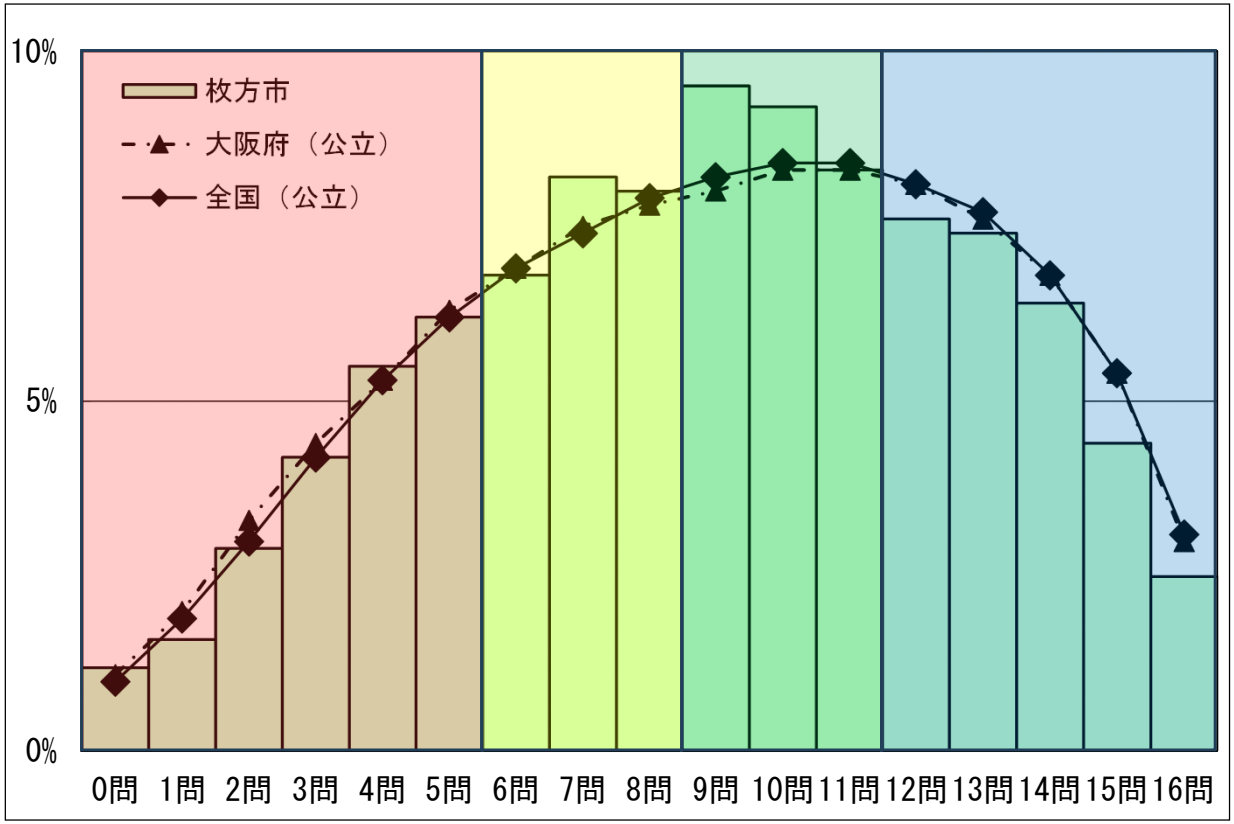
平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
算数	56%	56%	56.4%

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



小学校算数では、全国平均と概ね同等となりました。正答数分布グラフでは黄色の第２四分位・緑色の第３四分位（中正答率層）の児童が多く、青色部分の第４四分位（高正答率層）に関しては全国を若干下回る傾向が見られます。

調査結果から見えた枚方市の成果と課題について

枚方市の結果

小学校算数

分類	区分	平均正答率(%)	
		枚方市	全国(公立)
全体		56	56.4
学習指導要領の内容	A　数と計算	60.6	61.1
	B　図形	54.6	55.3
	C　測定	78.8	78.1
	C　変化と関係	40.0	41.1
	D　データの活用	48.4	48.6

小学校算数では、「C 測定」で全国平均を上回り、
「C 変化と関係」では、全国平均を下回りました。

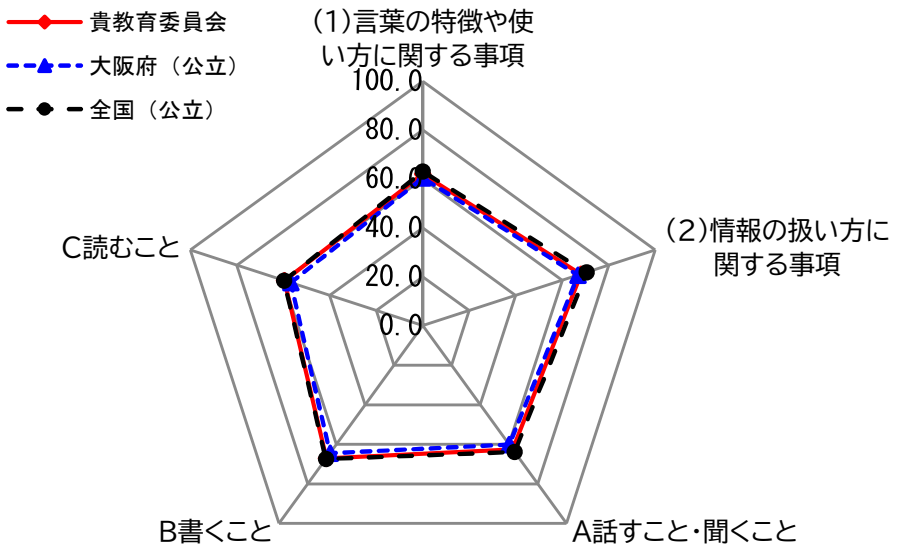
令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

中学校【国語】

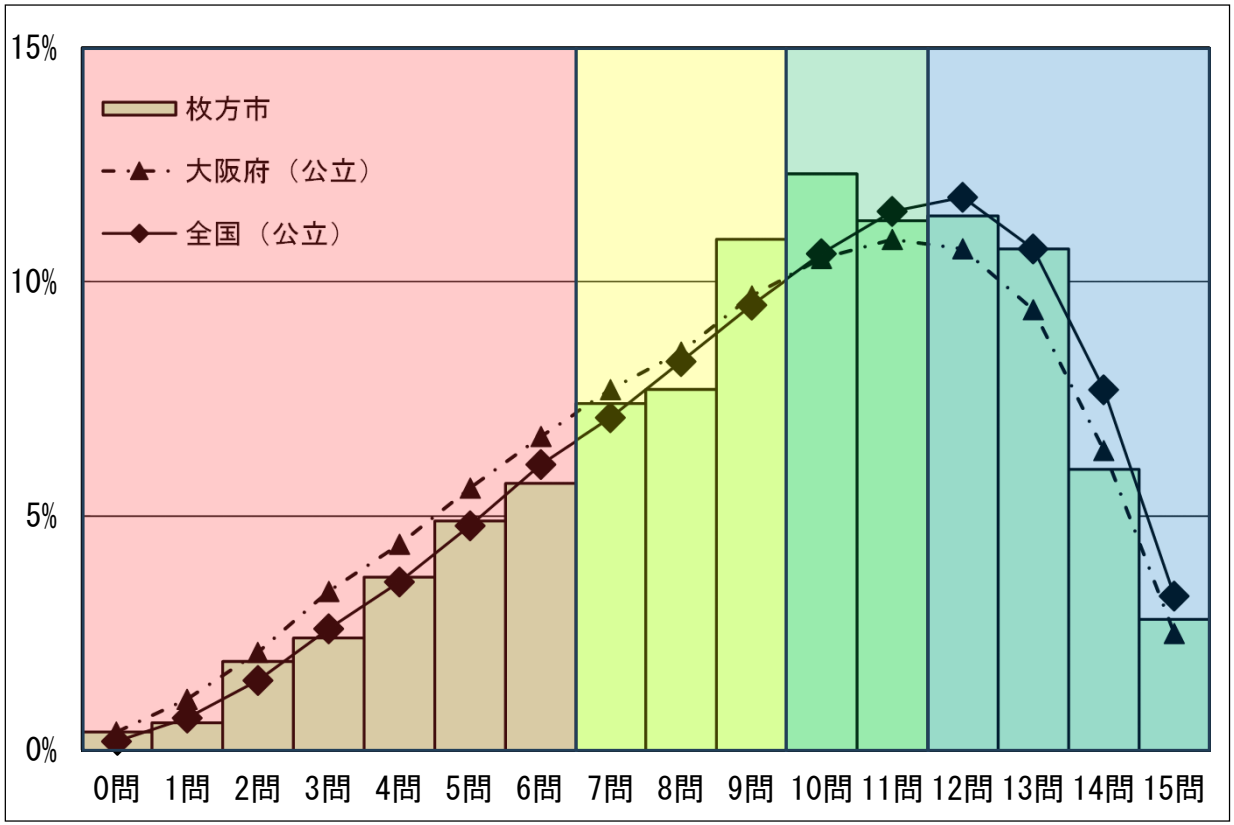
平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
国語	63%	61%	63.9%

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



中学校国語では、全国平均とほぼ同等となりました。正答数分布グラフでは赤色第１四分位（低正答率層）の幅が多く、青色部分の第４四分位（高正答率層）に関しても全国平均を若干下回る傾向が見られます。

調査結果から見えた枚方市の成果と課題について

枚方市の結果

中学校国語

分類		区分	平均正答率(%)	
			枚方市	全国(公立)
全体			63	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.0	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	68.0	70.4
	思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	62.6	63.9
		B　書くこと	67.1	67.4
		C　読むこと	59.5	59.7

中学校国語では、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」、「思考力、判断力、表現力等」の「A　話すこと・聞くこと」の分野において全国平均を下回りました。

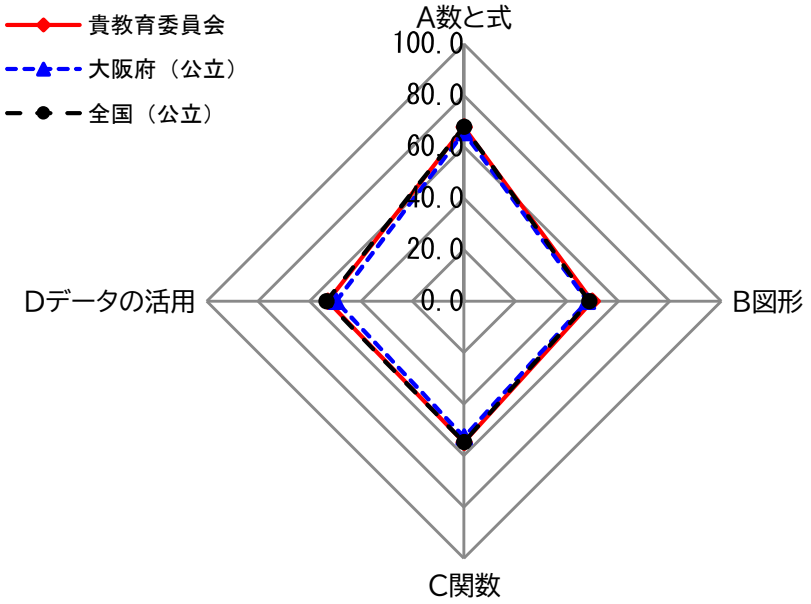
令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

中学校【数学】

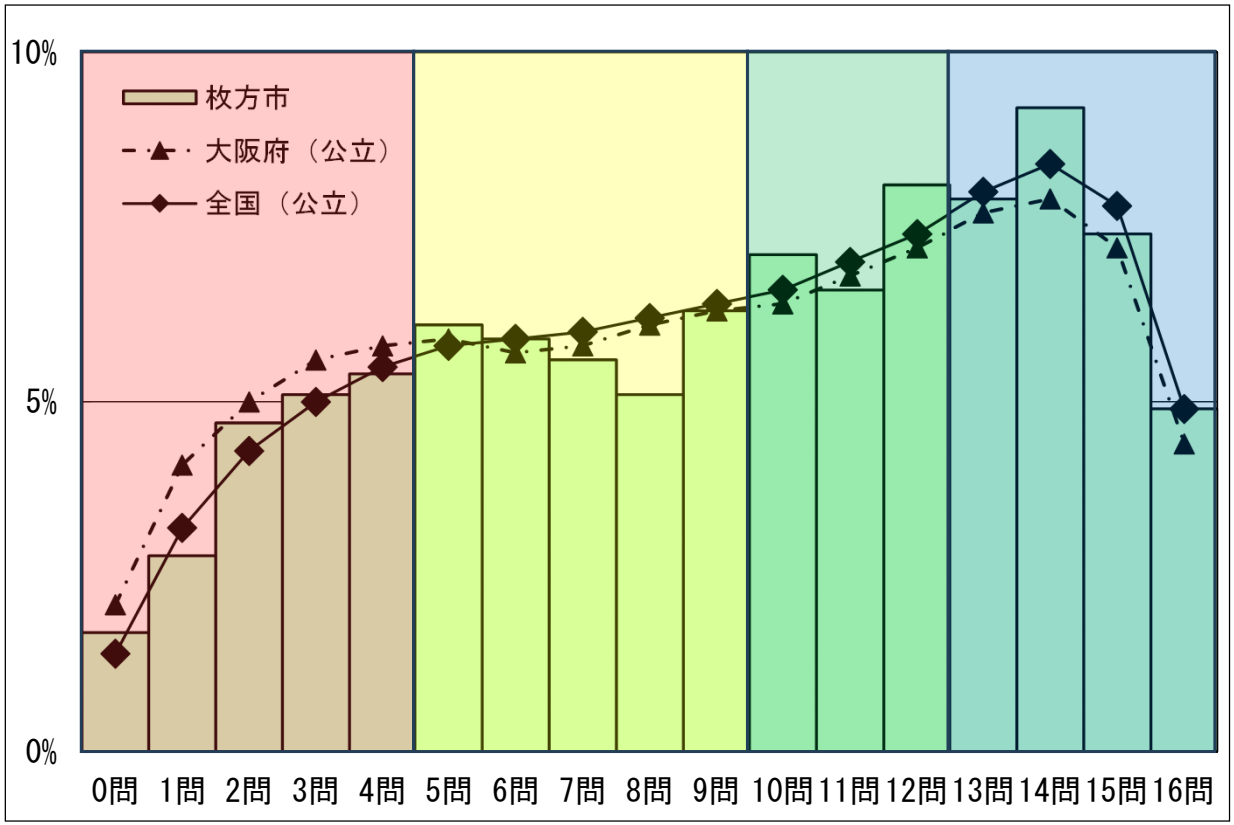
平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
数学	57%	55%	57.0%

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



正答数分布グラフ（横軸：正答数　縦軸：割合）



中学校数学では、全国平均と同等となりました。正答数分布グラフでは黄色の第２四分位、緑色の第３四分位（中正答率層）の範囲が広くなりました。青色部分の第４四分位（高正答率層）に関しては全国を若干下回る傾向が見られます。

調査結果から見えた枚方市の成果と課題について

枚方市の結果

中学校数学

分類	区分	平均正答率(%)	
		枚方市	全国(公立)
全体		57	57.0
学習指導要領の内容	A 数と式	67.7	67.8
	B 図形	49.8	48.7
	C 関数	54.9	54.8
	D データの活用	53.0	53.5

中学校数学では、「B 図形」の領域において、全国平均を上回り、
「D データの活用」は全国平均を下回りました。

令和8年度　全国学力・学習状況調査　枚方市結果概要

中学校【英語】

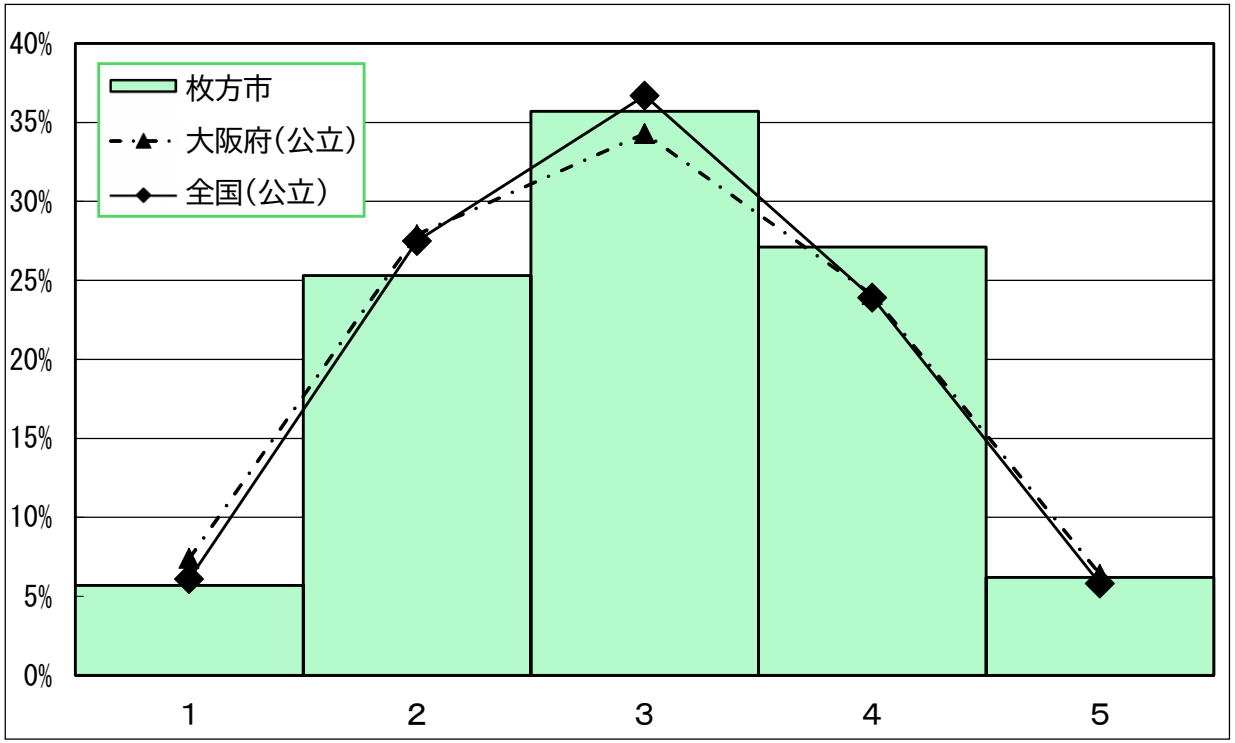
IRTスコア（基準値500）

IRT値	枚方市	大阪府（公立）	全国（公立）
英語	507	497	499

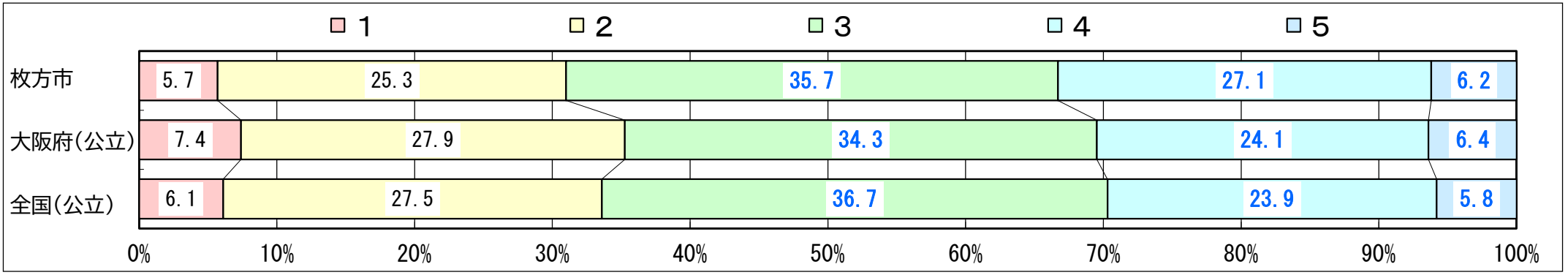
IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

中学校【英語】は、IRT方式で実施されました。枚方市のIRTスコアは全国値を上回りました。IRTバンド分布でもバンド１～３（低中正答率層）は全国値を下回りバンド４・５（高正答率層）は全国値を上回りました。

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド　縦軸：割合）



IRTバンド分布比較



中学校【英語】は、1人1台端末（タブレット）を活用する（Computer Based Test）で実施。
テストはIRT方式で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は、全生徒が取り組んだ問題と生徒ごとに異なった問題（公開及び非公開問題）があります。

調査結果から見えた枚方市の成果と課題について

枚方市の結果

中学校英語

全日程共通の公開問題における学習指導要領の領域		IRTスコア・平均正答数	
		枚方市	全国
全体		507	499(公立)
技能別平均正答数集計値	聞くこと	1.2	1.2
	読むこと・書くこと	2.7	2.6
	話すこと	0.6	0.7

*全国の技能別平均正答数集計値は、国公私立の値となっています。

中学校英語では、「読むこと・書くこと」の領域で、全国平均を上回り、
「話すこと」の領域で全国平均を下回りました。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

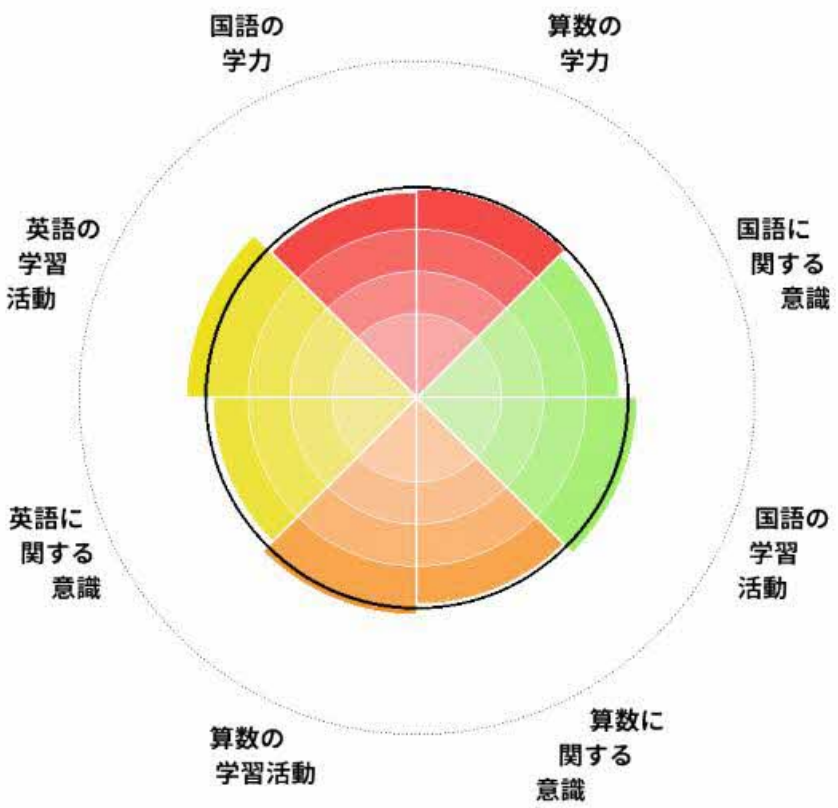
小学校

市内小学校における教科に関する調査、および児童質問紙調査の結果を標準化して図示したチャートで示しています。

全国学力・学習状況調査結果チャート

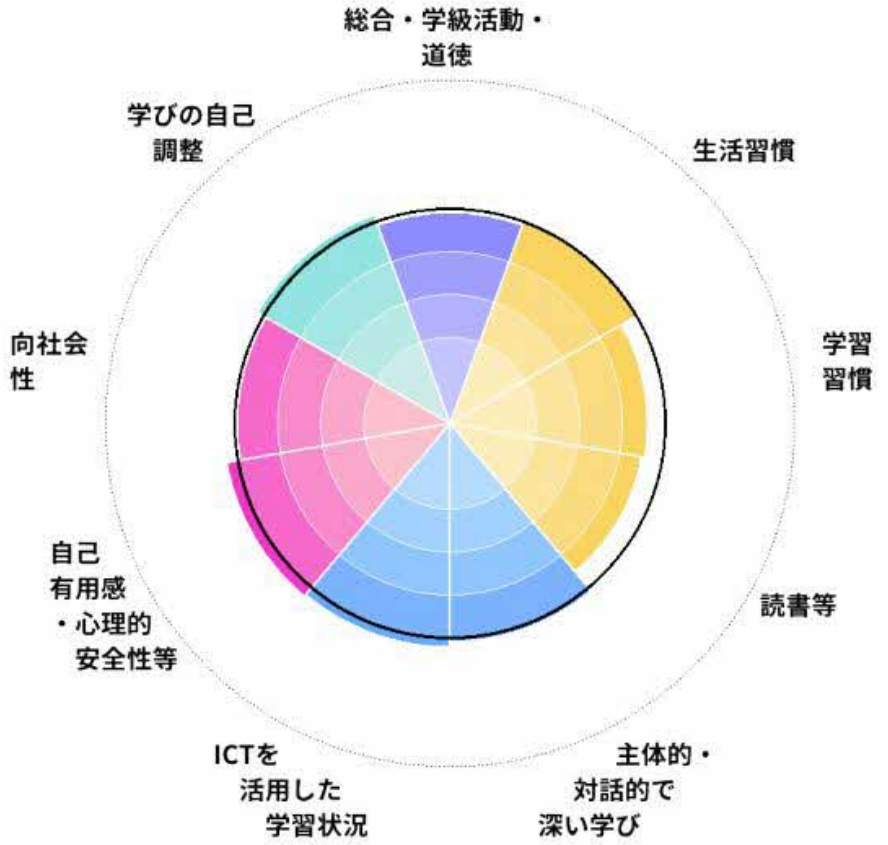
［教科を中心とした学力・学習状況］

（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］

（全国基準）



チャート内の点線は、全国の平均値を示しています。

★「英語の学習活動」「ICTを活用した学習状況」「自己有用感・心理的安全性等」などにおいて全国基準以上となっている。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

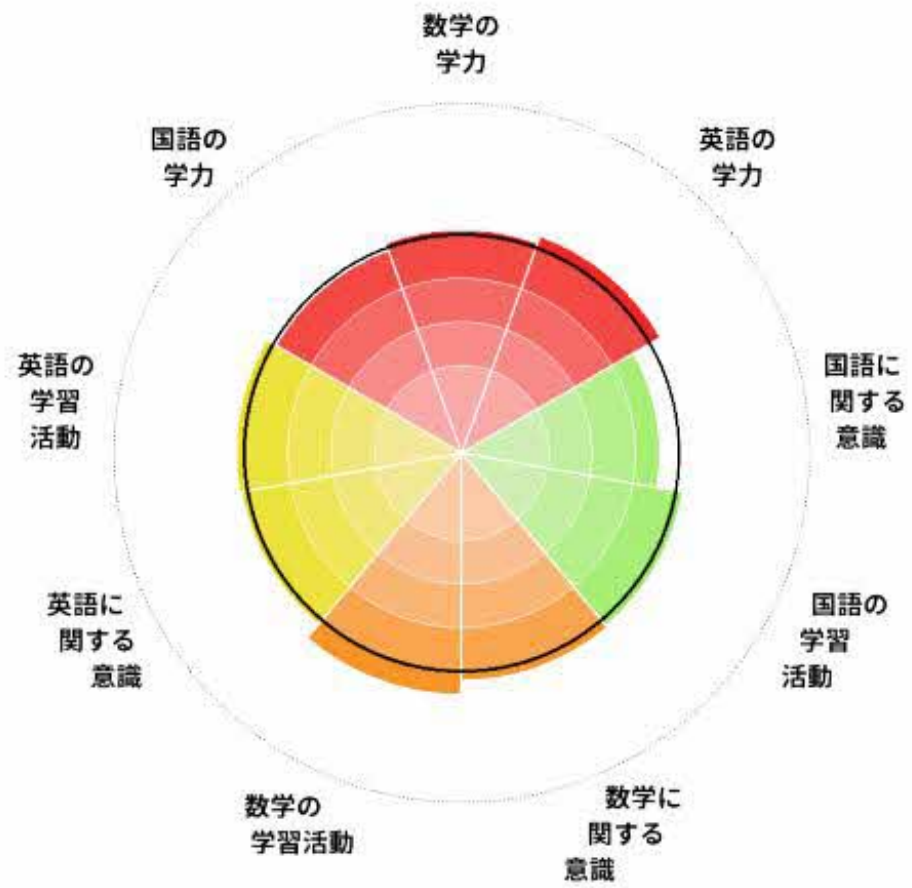
中学校

市内中学校における教科に関する調査、および生徒質問紙調査の結果を標準化して図示したチャートで示しています。

全国学力・学習状況調査結果チャート

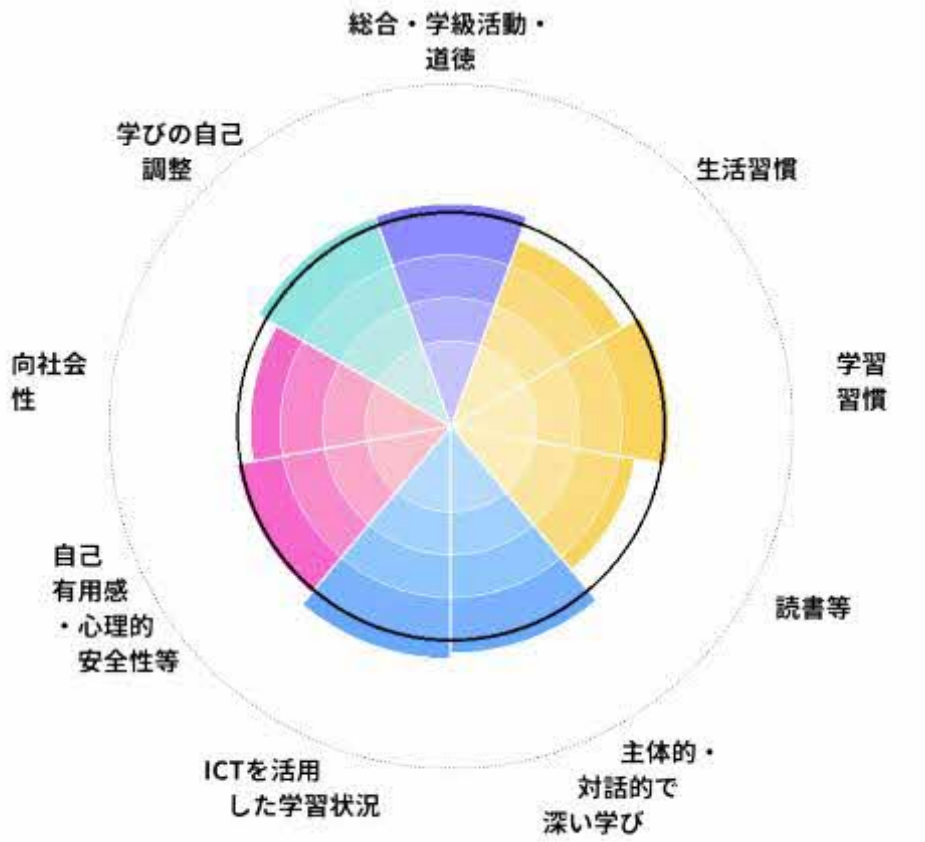
［教科を中心とした学力・学習状況］

（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］

（全国基準）



★「英語の学習活動」「数学の学習活動」「ICTを活用した学習状況」などにおいて全国基準以上となっている。

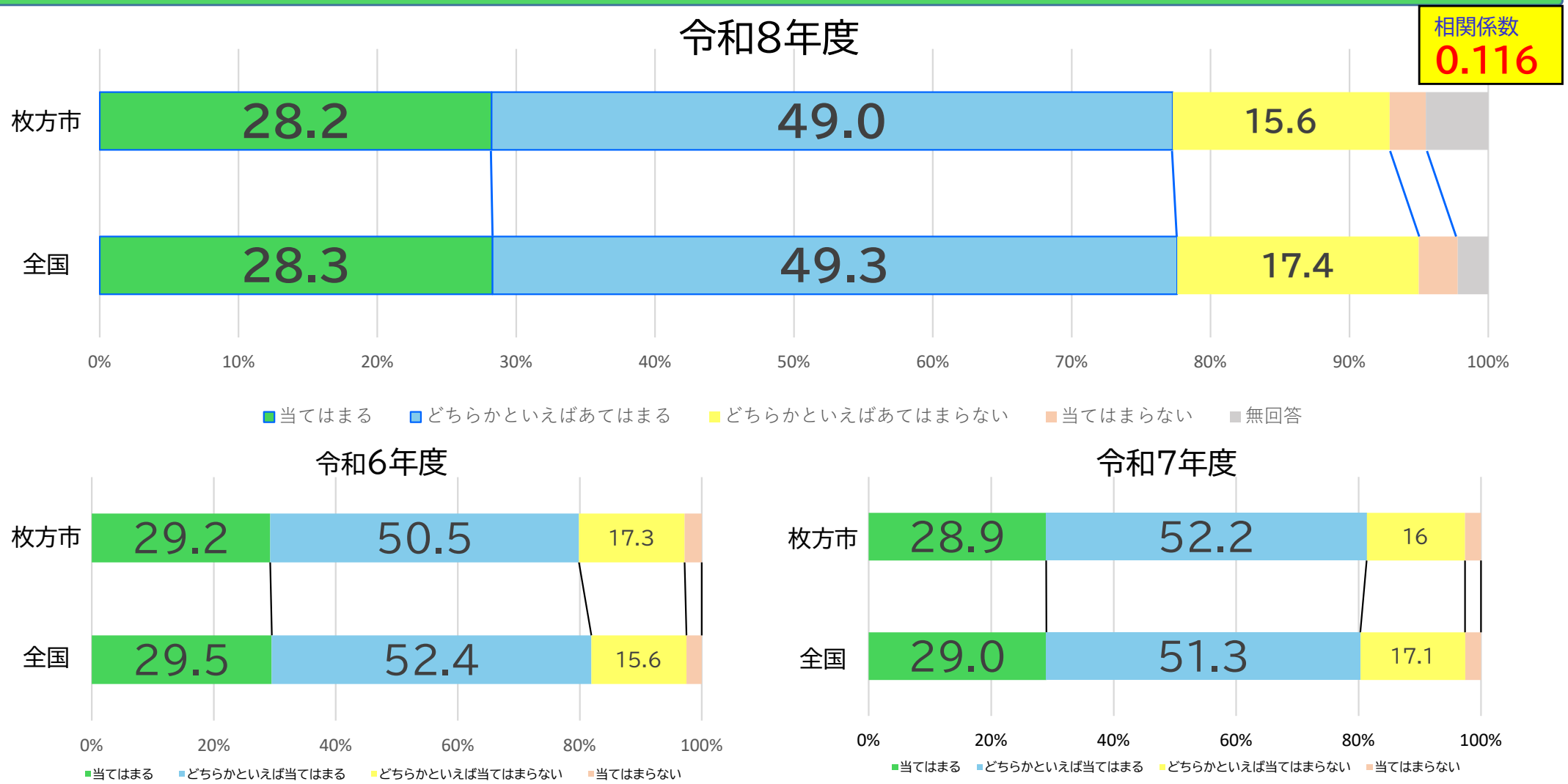
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

小学校

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

相関係数とは･･･2つの質問の回答間での「関係性の強さ」を知るための指数です。
＊ ここでは、児童生徒質問紙調査と学力調査の正答率の相関関係を示しています。

5年生（小学校）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（児童生徒質問紙）



全国と同程度の77.2%の児童たちが自ら課題解決に向けて取り組むことができています。

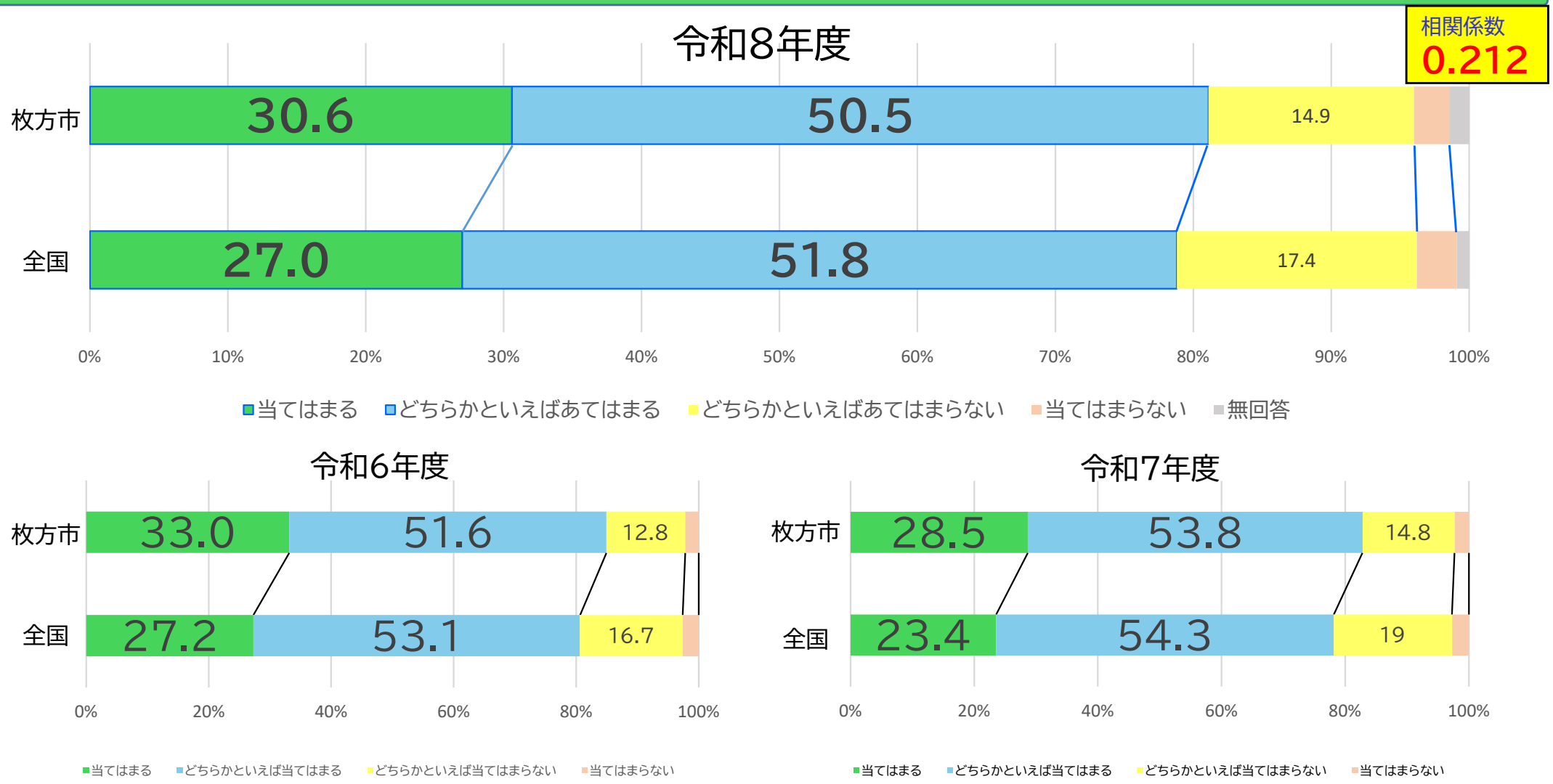
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

中学校

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

相関係数とは･･･2つの質問の回答間での「関係性の強さ」を知るための指数です。
＊ ここでは、児童生徒質問紙調査と学力調査の正答率の相関関係を示しています。

2年生（中学校）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（児童生徒質問紙）



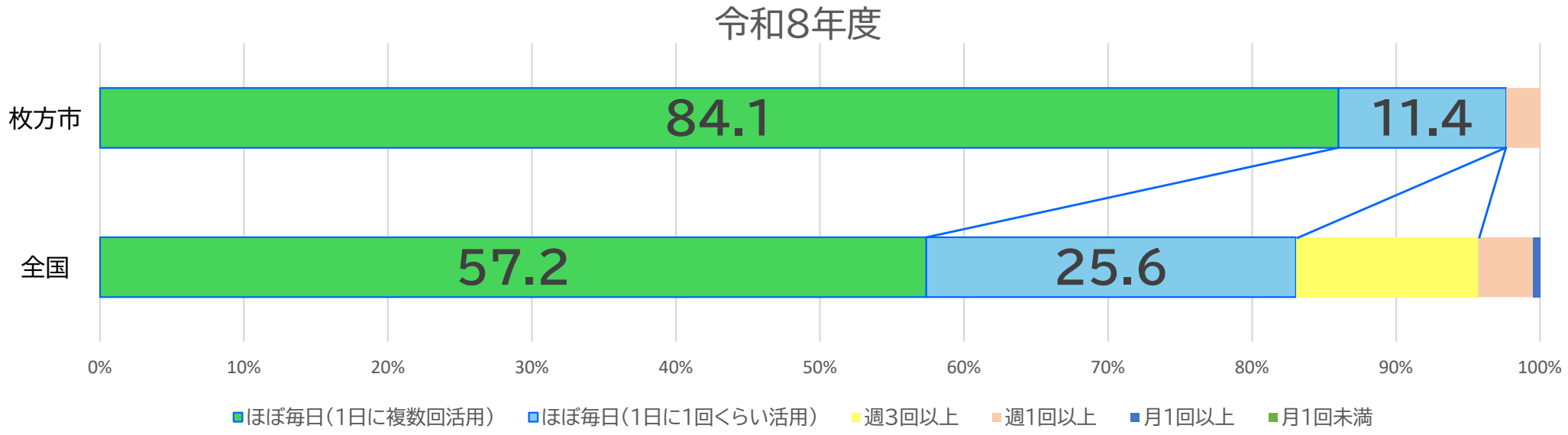
全国平均を上回る81.1%の生徒たちが自ら課題解決に向けて取り組むことができています。

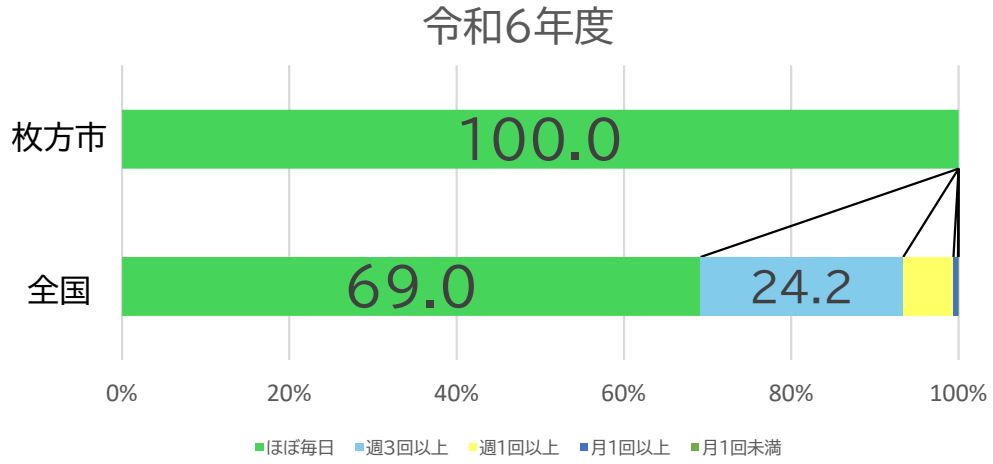
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

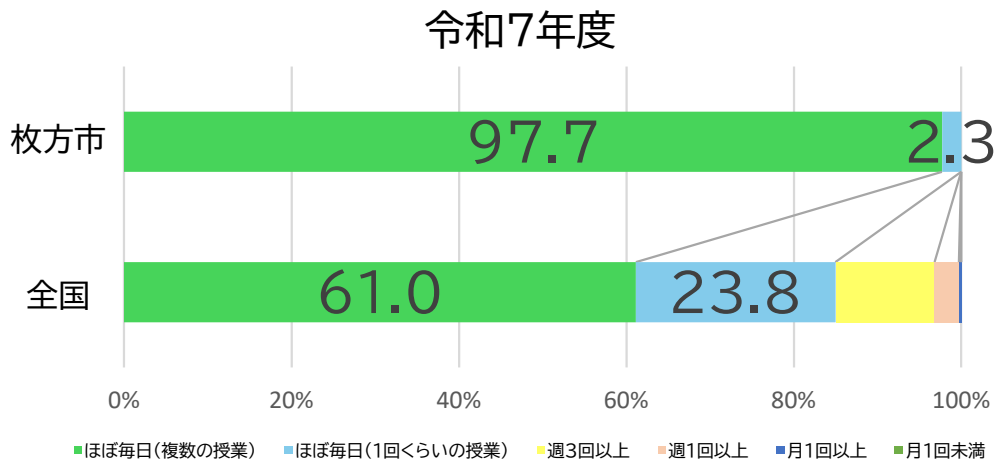
小学校

ICTの活用

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(学校質問紙)







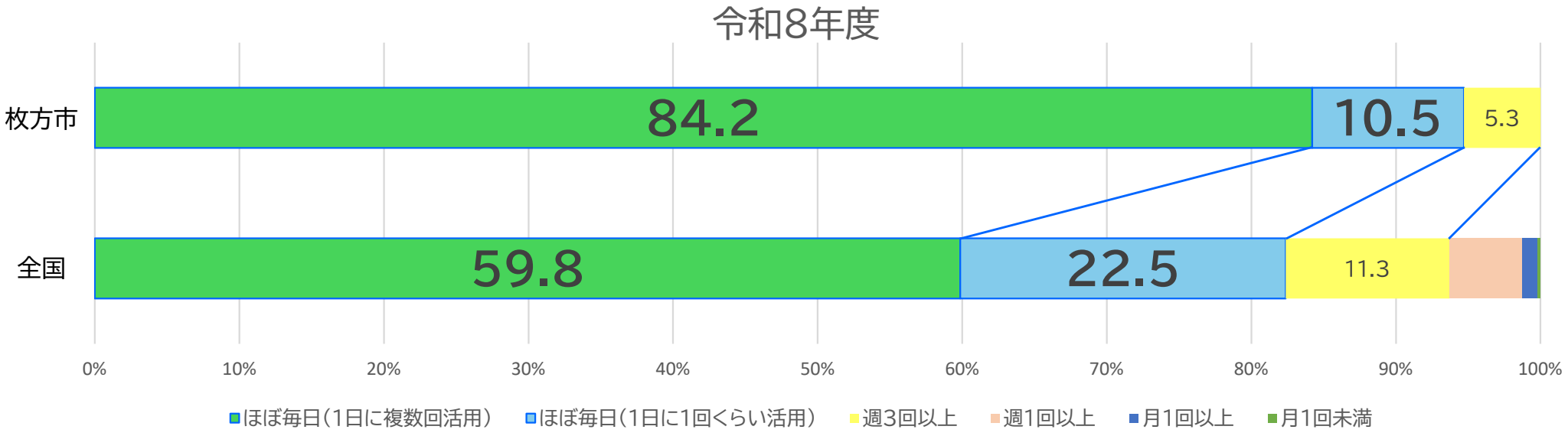
○ ICT機器を「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」活用する学校が84.1%、
「ほぼ毎日(1日に1回ぐらい)」を加えると95.5%の活用であり、全国と比較して高くなっています。

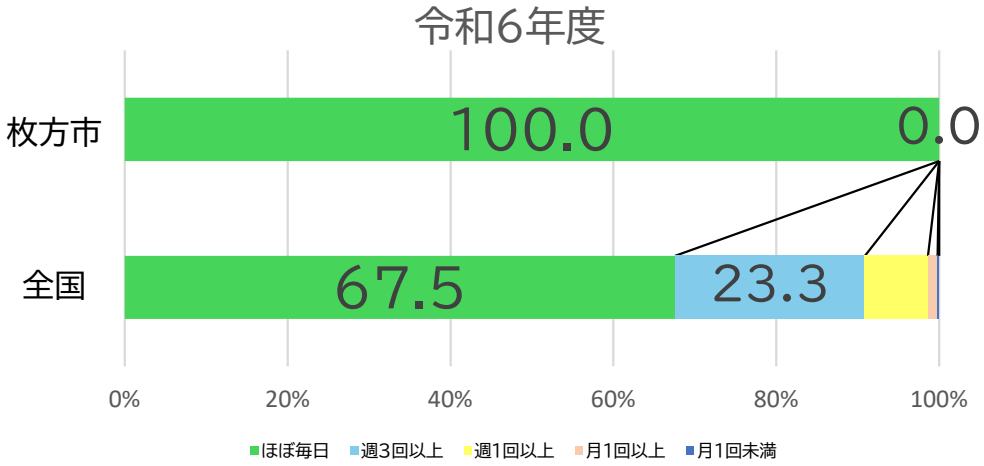
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

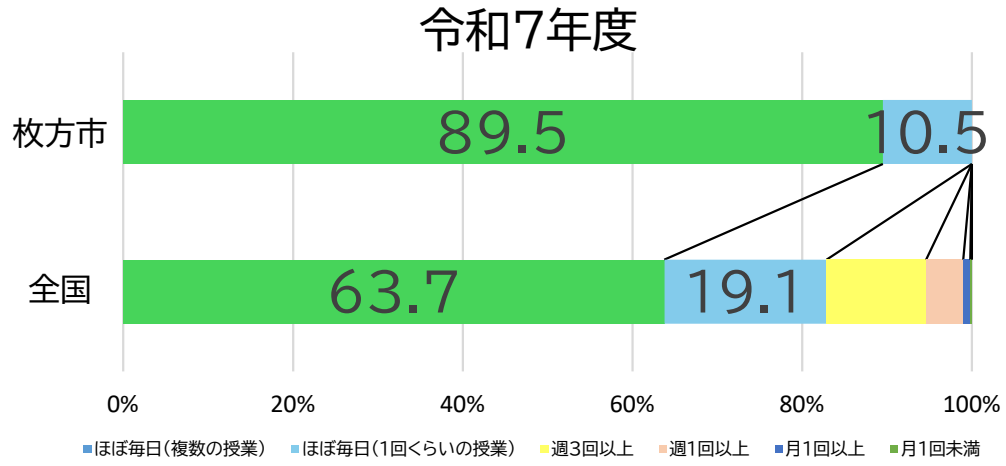
中学校

ICTの活用

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか(学校質問紙)







○ ICT機器を「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」活用する学校が84.2%、
「ほぼ毎日(1日に1回ぐらい)」を加えると94.7%の活用であり、全国と比較して高くなっています。

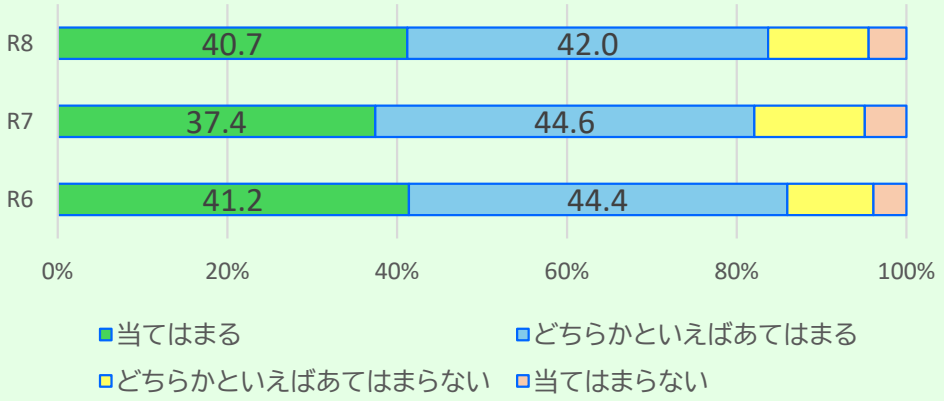
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

小学校

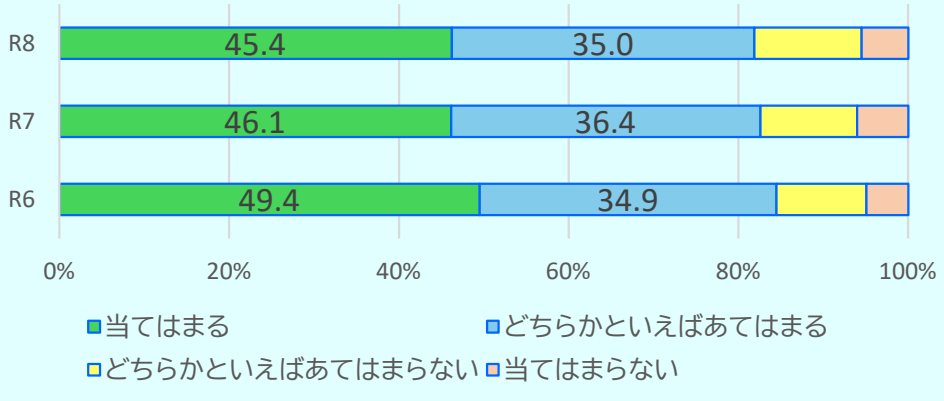
各教科への興味・関心、理解度

国語・算数の授業の内容はよくわかりますか（児童生徒質問紙）

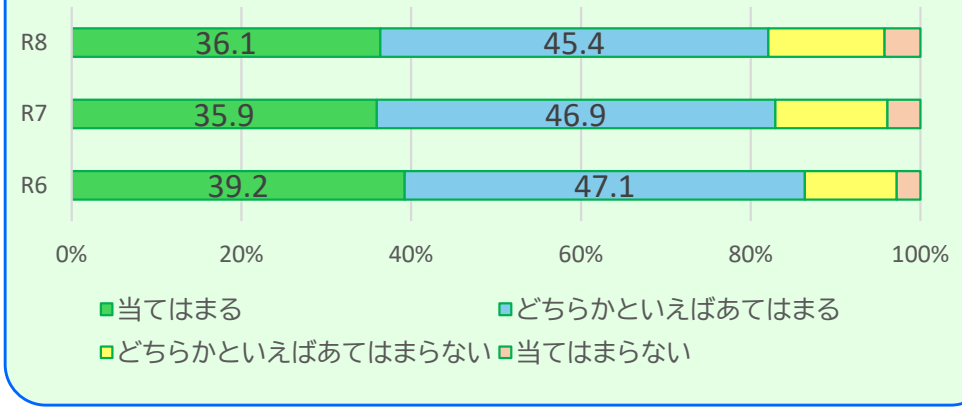
小学校国語（枚方市）



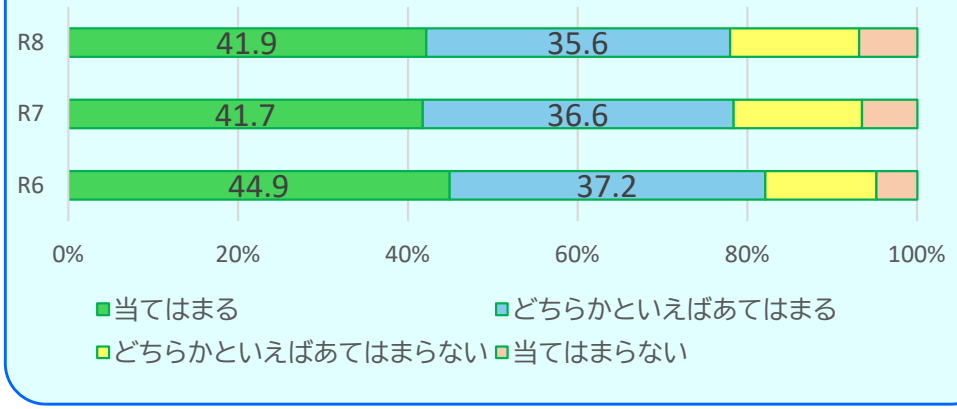
小学校算数（枚方市）



小学校国語（全国）



小学校算数（全国）



○ 「授業内容がよくわかる」と回答した児童ほど各教科の正答率が高いが、国語「よく分かる」児童の割合が前回調査から増加し、算数の「よくわかる」児童がわずかに減少しています。

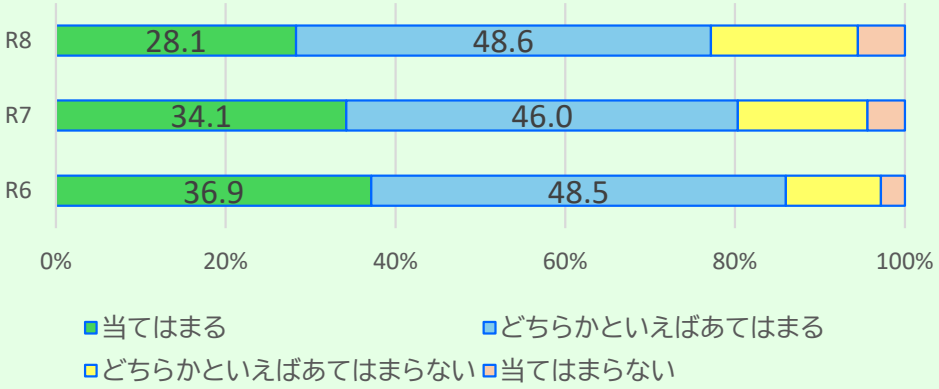
令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果＜質問紙調査＞

中学校

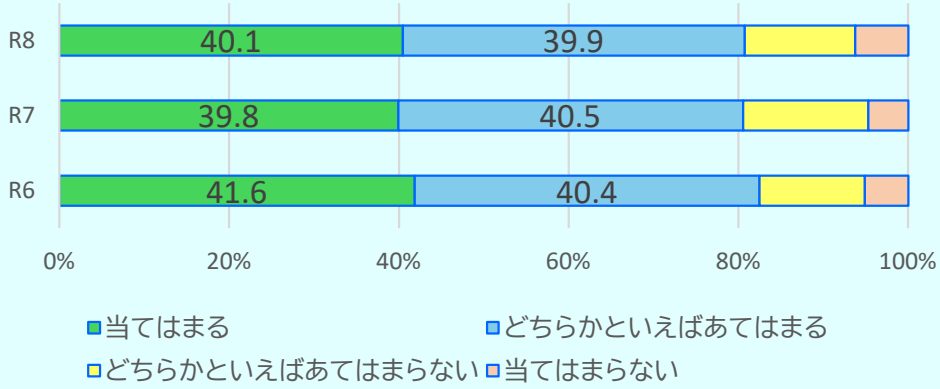
各教科への興味・関心、理解度

国語・数学の授業の内容はよく分かりますか(児童生徒質問紙)

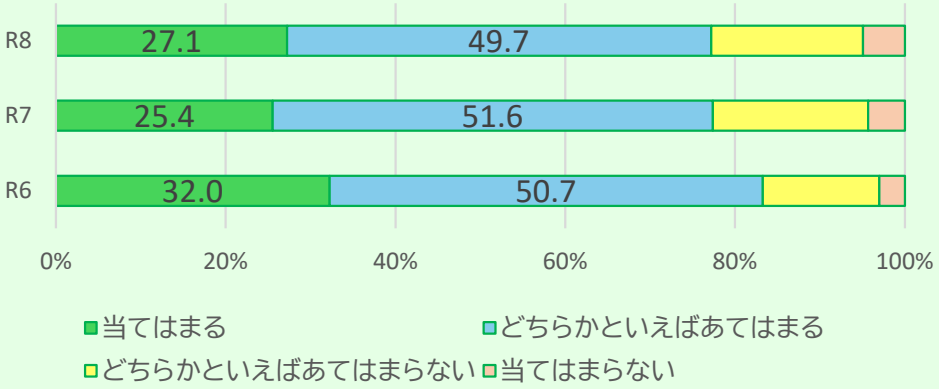
中学校国語(枚方市)



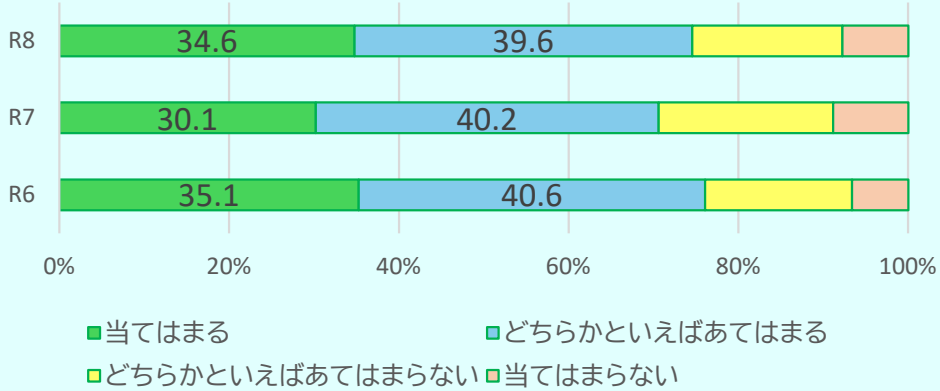
中学校数学(枚方市)



中学校国語(全国)



中学校数学(全国)



○「授業内容がよく分かる」と回答した生徒ほど各教科の正答率が高いが、国語で「よく分かる」生徒の割合が減少しています。また数学では「よくわかる」生徒の割合が前回調査から全国と同様に増加しています。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえたまとめ

成果

小学校の調査結果（国語・算数）では、分野別でみると国語では「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと」、算数では「測定の分野」が全国を上回っています。また、「ICTを活用した学習状況」でも肯定的回答が全国平均を上回っていることから、**ICTを効果的に活用することで資料や日常生活から自分が考えたことを発表するなどの言語活動の充実につなげた取組の成果が表れている**と考えられます。

中学校の調査結果では、数学は全国平均と同等、英語は全国を上回る結果となりました。また、小学校と同様に「ICTを活用した学習状況」でも肯定的回答が全国平均を上回っています。さらに生徒質問紙調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の肯定的回答が全国平均を上回りました。

授業内で自ら課題を設定し、学んだことを生かしながら主体的に考え、「ICT機器」等を効果的に用いて表現する力が身についたと考えられます。

以上のことから、この**日常的なICT活用は、単に端末を使うこと自体が目的ではなく、児童生徒が自ら情報を収集・整理し、考えをまとめ、発表し合う「言語活動」や「主体的な学び」を強力に支える基盤となっている**ことがわかります。

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえたまとめ

課題

小中学校ともに国語においては、**低正答率層（第1四分位）の幅が広く分布しており、基礎的な漢字・語彙や文法知識（言葉の特徴や使い方）の未定着が全体の底上げを阻む要因**となっています。小学校国語では知識及び技能の「言葉の特徴や使い方」、中学校国語では「情報の扱い方に関する事項」に課題が見られました。

算数（小学校）・数学（中学校）においては、中正答率層（第2・第3四分位）に分厚い児童生徒層が集中しています。標準的な問題は理解できているものの、**応用力の養成や高正答率層（第4四分位）への引き上げに課題**があります。

全教科を通じて、高正答率層（第4四分位）の割合が全国平均を若干下回る傾向にあり、また記述式問題を中心に問題に取り組みきれずに白紙で提出する**「無解答率」の高さも目立っており、あきらめずに最後まで考える粘り強さの育成や「知識及び技能」のより確実な定着が必要**です。